どんぐりの森通信　第31号　2018年4月

雪解けが早い今年の札幌、3月下旬にはあちこちでフキノトウが顔を出し、水際では早くもミズバショウが白い苞を伸ばして開花しています。飛来が遅いと気を揉ませたアオサギたちも、姿を見せると早速巣の補修に取り掛かって、子育ての準備を始めました。春本番はすぐそこまで来ています。

私たち『平岡どんぐりの森』は、地域の身近な自然に親しむ活動をしているグループです。平岡公園や東部緑地をフィールドにして、自然観察会や生きもの調査・保護活動などを通じて、地域の自然環境を見守る目を増やしていきたいと願って活動しています。

今年は自然や人との、どんな出会いが待っていてくれるでしょうか。

『どんぐりの森通信第31号』では、昨年度の活動報告と合わせて、これからの活動予定を紹介します。

春～夏　平岡どんぐりの森の活動

●ながぐつの土曜日　毎月第3土曜日 10:00 平岡公園第1駐車場集合　参加費 100 円

小学生の親子を中心にした「ながぐつの土曜日」は、平岡公園管理事務所と共催の楽しい自然観察会です。北海道自然観察協議会指導員の『ゆうさん』をリーダーに平岡公園内をくまなく探検、季節の花や樹木、動物や虫、鳥など、目に付いたものは何でも見てみよう、触ってみよう、調べてみよう、と歩いています。生きものに詳しい酪農学園大学の学生さん達も毎回参加して、気軽に子ども達の質問に答えてくれますから、毎月参加して園内を一周すれば、キミも『平岡公園博士』になれるよ！

❖2017年度の活動日誌から❖

4月15日（土）　*飛び出せ！春のたんけんたい*

雪が融けたばかりの木道を歩いて湿地や池に向かい、*エゾアカガエル*の卵を探します。あちこちの水面に盛り上がった産みたての卵塊を見つけて、歓声を上げる子供たち。バケツに入れた卵の塊りを、そっと手のひらに載せて手触りと重さを確かめてみよう。いつ頃オタマジャクシになるのかな？

湿地には*ミズバショウ*、*ザゼンソウ*、*エゾノリュウキンカ*が咲き始めました。

5月20日（土）　*若葉の森たんけんたい*

*ミズバショウ*の葉がびっくりするほど大きくなった上流湿地で、早くも今年一番のトンボを見つけました！羽化したばかりの*モイワサナエ*です。木道を素早く動き回る*カナヘビ*をつかまえた子もいました。*ミツガシワ*の可憐な白い花が一面に咲きだした人工湿地では、*エゾアカガエル*のオタマジャクシが元気に泳ぎ回っています。梅の香橋に向かう帰りに*コメツキバッタ*を見つけて、みんな大興奮！何回ジャンプが続くか、跳ね回るコメツキバッタを囲んでカウントしました。

●アオサギ･コロニーの観察

毎年春から夏にかけて、多数のアオサギが平岡イオンの森に飛来してコロニー（集団営巣地）を作り、子育てをしています。20年ほど前、旧拓銀保養地だった森に野幌森林公園から移動してきたと推定される集団です。春まだ浅い3月に飛来して巣作りし、夏の終わり頃には子育てを終えて去っていくアオサギたち。近くの平岡高校のご協力を得て、毎年4月～6月の子育て期間中に、高校屋上からアオサギ･コロニーを見守る観察会を続けています。

昨年度は 3 回の観察会と、北海道アオサギ研究会代表の松長克利さんの講演会『あおさぎの言い分』を開催しました。今年は飛来が遅めで心配しましたが、3月13日には37羽を確認、その後も続々と数を増やして平岡上空を飛ぶ姿が見られています。子育てが順調に進むと良いですね。今年も 4 月～6 月にかけて、巣の中で抱卵する親鳥の様子や、せっせとヒナに餌を運ぶ姿、幼鳥の成長していく様子など、子育て期間中のアオサギ･コロニー観察会を予定しています。

●モニタリングサイト1000　里地調査

5 年を 1 単位として、継続して同じ場所で観察を続けて自然環境の変化を記録する環境省のプロジェクト『モニタリングサイト 1000 里地調査』。平岡どんぐりの森は、〈平岡公園でのカエルの産卵〉と、〈東部緑地での越冬期および繁殖期の鳥の調査〉の 2 件で参加し、調査を継続しています。毎年雪融けと同時にあちこちで聞こえてくるカエルの鳴き声、水面に盛り上がるカエルの卵探しから、春の活動が始まります。

◎エゾアカガエル　調査日 ' 17 年 4/7　4/15　4/21　（平岡公園）

2017 年の雪解けは早く、エゾアカガエルの産卵は 3 月後半に始まり、3 月 27 日に公園内で卵塊 8 個を確認。調査 1 回目 4/7 には梅の香橋エリアで卵塊 23 個を見つけ、カエルの合唱も聞こえました。他のエリアは確認なし。2 回目 4/16 は上流湿地 2 個、はらっぱエリア 6 個、人工湿地 2 個。3 回目 4/21 は上流湿地 3 個、はらっぱエリア 3 個、人工湿地 10 個、梅の香橋エリア 2 個の卵塊を確認しました。2009 年の調査開始から 2012 年（卵塊 395 個）をピークに年々減少して、2017 年は卵塊総数 51 個でした。

平岡公園では国内外来種の*トノサマガエル*が繁殖して、在来種の*エゾアカガエル*への影響が心配されています。子ども達との観察会では、カエルの産卵の様子を紹介しながら、もともと北海道には生息していなかった*トノサマガエル*が増えたのは何故か、何が問題なのか、*トノサマガエル*をきっかけにして外来種の問題を考えています。

◎鳥類（繁殖期）　調査日 ' 17 年 6/14　6/24　7/8（東部緑地）

東部緑地の大曲川沿いの遊歩道約1㎞を歩きながら、半径50m以内で確認された鳥類の種名･個体数を記録します。
初夏になると、親鳥と一緒に幼鳥の姿を見ることができます。

6/24 の調査では、*コゲラ*、*シジュウカラ*、*ゴジュウカラ*、*センダイムシクイ*の幼鳥を確認。また、*クマゲラ*の♂が河畔林で採餌する姿を、すぐ近くで観察できたのはラッキーでした。遊歩道沿いには*エゾカンゾウ*や*トケンラン*、*チシマアザミ*の花が咲き、目を楽しませてくれます。

7/8 の調査では、幼鳥の声はたくさん聞こえますが、葉が茂って姿を見つけるのは困難でした。*ヒカゲチョウ*や*ヒョウモンチョウ*、*シジミチョウ*が見られました。